



子供さんへの目配り・気配りを

前途洋々

昨年度も同じことを書きましたが、近年、長期休業明けは、子供の自死が増加する傾向にあります。決してあってはならないことで、身近な大人が子供の様子の変化に気付くことが重要です。表情の変化から子供の気持ちを読み取ることはもちろん、心配なことがないかなど、日常の小さな会話を大切にしていなければなりません。また、我々の時代と違い、子供たちはネットで簡単に見知らぬ人とつながることができます。残念ながら、悪意のある人間がネットを介して子供たちをだまそうとしているケースが多々あることをご家庭でもお話してください。

また、お金の使い方がおかしい、隠しごとをしている様子があるなどということもあるかもしれません。繰り返になりますが、日々の小さな会話を大切にいただき、子供たちを見守っていただけたらと思います。どうぞ、よろしくお願いいたします。



どうしても防ぎたい！ 水難事故

夏休みに入るに当たって、子供たちに伝えたい安全上の注意はたくさんありますが、いつも気になっているのが、毎年この時期に多い水難事故についてです。7月に入ってから、子供たちが命を落としたという水の事故のニュースがとて増えました。

本校の校区には、海や川、ため池、用水路など、気をつけなければならないポイントがたくさんあります。そこで、保護者の方と「防止対策」について共有しておきたいと思います。（「令和6年夏期における水難の概況」から（警察庁生活安全局生活安全企画課））

○ 危険箇所の把握

転落等のおそれがある場所、藻が繁茂している場所、水流や水温の変化の激しい場所、深みのある場所などを把握しておく。

○ 的確な状況判断

海や川に行く際には、事前に気象情報を把握。風雨、落雷等の天候不良時や上流で雨が降っている場合など、河川の増水のおそれが高いときは、釣りや水泳、中州や河原でのバーベキューを行わない。海では、離岸流や高波が発生するおそれがあるときは、海に入らない。

○ ライフジャケットの活用

釣りやボート等で水辺に行くときは、必ずライフジャケットを着用。体のサイズに合ったものを選び、正しく着用する。

○ 遊泳時の安全確保

- ・ 「危険区域」と標示された区域内には入らない。
- ・ 遊泳区域以外の水域で遊泳しない。
- ・ 遊泳中、他人に抱きつくなどの游泳上危険な行為はしない。
- ・ 游泳に当たっては、水深、水流を考慮し、安全な方法で游泳する。
- ・ 海水浴場として開設されていない場所は、監視員が不在であるなど、安全が確保されていないため、開設の有無、監視員の存在等を確認する。



○ 保護者等の付添い

子供の水難防止のため、子供一人では水遊び等をさせず、幼児や泳げない学童等には、必ずライフジャケットを着用させ、その者を保護する責任のある者が付き添うなどして、目を離さないようにする。

安全に夏休みを過ごしてくれることを心より祈っています！ よろしく
お願いします！